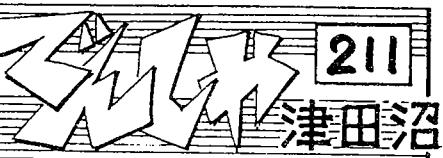


1986年8月19日
勤労千葉 津田沼支部

腐りはてた裏切り分る、 を許すな！ 行方富士夫

「テッキあげマル生組合」
千葉鐵道技能人協議会解体

主謀者 行方を許す

8月19日、西側の引人によつて、「千葉鐵道技能人協議会」として、マル生組合がテッキあげられた。

現地で当局は新規設立してある。一方で、新規組合は次々と崩壊している。これにともない、老労組合は、運転保安をも無視した合理化を強行、削減のみを目的にした要員削減のあげく

革、「眞国労や動労革フリ=「改革労協」と運命をともにするといふ

裏切り者行方富士夫・井上宙丈

自分だけはと運命をもつたう抜けがけ組織「協議会」

「人を蹴おとしても自分だけは生き残りたいと『千葉鐵道技能人協議会』なるものをデッキ上げた裏切り者、行方富士夫・井上宙丈らは、八月二一日の『全国鐵道協議会連合会』結成に加わり、当局と「労使共同宣言」を結んでいる動労革マルや鉄労などと徒党を組み、動労千葉・國労破壊を自分から買つてでてきたのである。『協議会』などと労組を名のらずとも、自分だけは助からうという抜けがけ組織など断じて許せない。

ブチ壊してきたのは当局

余剰人員などと人材活用センターへ送り込んできたのだ。

そもそも「正常な労使関係」を一方的に破つてきたのは国鉄当局ではないか。

『協議会』は結成大会で「正常な労使関係の維持で組合員の雇用を守る」方針とともに「労使共同宣言を当局と結んでいる各組合と連帯し、共同歩調をとる」などをも決定したという。

当局にゴマをすることが正常な労使関係などと認識している四組合『改革労協』

や『協議会』はさて置いても、この間、決まつてもいい分割・民営化の既成事実の積み重ねを当局は行つてきた。それは、団体交渉にもまともに応じようともせず運転保安をも無視した合理化を強行、削減のみを目的にした要員削減のあげく

「裏切り者」の烙印は消えない

断じて許せないことは「動労革マル・鉄労・真国労・全施労などと手を組んで動労千葉破壊をやろう」ということだ。

動労革マルら四組合で結成した『改革労協』は、当局に対し労使協調の新たな証として組合自ら求め「新会社の黒字になるまで争議権の行使を自粛する」とした『第二次労使共同宣言』を結んだ。

動労革マル・松崎は「ダメな労組国労をいじめぬき、消えてもらう」と全施労大会で叫んだ。これが労働組合の委員長

・松崎の発言なのだ。

行方富士夫や井上宙丈がこんな連中と運命をともにするのは勝手だが、われわれは組織破壊・分裂を手をこまねいて見過すわけにはいかない。

仲間が首をかけて必死の気持ちで首切りに反対し、仲間と、家族と一緒にになって闘つている時、逃げだし、仲間を売りわたす者など絶対に許しはしない。

日刊 動労千葉

86.9.8
No.2345
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
(鉄電)二九三五六・(公衆)〇四七二二二七一〇七